

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9 （共通）

## 科学研究費助成事業

## 研究成果報告書



令和 5 年 6 月 1 7 日現在

機関番号：3 4 5 1 4

研究種目：若手研究

研究期間：2019 ~ 2022

課題番号：1 9 K 1 4 3 7 6

研究課題名（和文）死の顕現化が原子力発電問題に対する市民の心理と市民参加意識に与える影響

研究課題名（英文）The effects of mortality salience on perceived risk and citizen participation in nuclear energy issues.

研究代表者

辻川 典文（Norifumi, Tsujikawa）

神戸親和女子大学・文学部・教授

研究者番号：5 0 6 3 6 7 8 5

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000 円

研究成果の概要（和文）：原発の利用は、地球温暖化対策やエネルギー問題を解決するうえで有効である。しかし、事故時の環境汚染や放射性廃棄物など、生命を脅かす問題もある。本研究では、存在脅威管理理論をもとに、死を意識した状況における原発のリスク認知について検討を行った。様々なリスク事象に対する意識を調査した結果、原発に対する不安感は、他のリスク事象と比べて高いというわけではなかった。一方で原発の管理機関への信頼は低かった。死の顕現化の影響についての一連の実験では、死を想起した状態で原発のリスク評価を行った場合、原発高関心層でリスク認知の低下がみられた。また、原発低支持層では、リスク認知の高まりがみられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

原子力発電の問題は、エネルギー供給の側面だけでなく、直接的な死を意識させられる問題でもある。本研究では、死が顕現化した状況での原発のリスク評価と死が顕現化しない状況でのリスク評価が大きく異なってしまう可能性を明らかにした。また、この死の顕現化の影響は原発に対する関心度や支持度などといった事前態度によって影響を受けることも明らかにした。今回の結果は、リスクマネジメントにおける市民の反応に関して重要な結果を示唆できたといえる。

研究成果の概要（英文）：Nuclear power is effective in combating global warming and solving energy problems. However, it also causes problems, such as generating environmental pollution and radioactive waste, which threaten lives. In this study, I refer to the terror management theory to examine how the manifestation of death affects the risk perception of nuclear power. A questionnaire study on various risk incidents was conducted. Anxiety about nuclear power was not higher than the other risk incidents. On the other hand, trust in the managing bodies of nuclear power plants was lower than the other risk incidents. A series of studies on mortality salience was conducted. The results showed that when the level of support for nuclear power was low, the effect of mortality salience declined the perceived risk of nuclear power. In another study, when the level of interest in nuclear power was high, the effect of mortality salience increased its perceived risk.

研究分野：社会心理学

キーワード：存在脅威管理理論 リスク認知 信頼 原子力発電

様 式 F - 6 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（収支状況報告書）（ 令和3年度）

令和4年 5月17日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

		機関番号	3	4	5	1	4
所属研究機関名称		神戸親和女子大学					
研究 代表者	部局	文学部					
	職	准教授					
	氏名	辻川 典文					

1. 研究種目名 若手研究

2. 課題番号 1 9 K 1 4 3 7 6

3. 研究課題名

死の顕現化が原子力発電問題に対する市民の心理と市民参加意識に与える影響

4. 交付決定額 (円)

交付決定額	3,640,000
うち既受領額累計(a)	3,640,000
うち支出累計額(b)	2,868,194
差引額(a - b)	771,806

5. 補助事業期間 令和元年度～ 令和4年度

6. 費目別収支状況等

(円)

	合計 (c + d)	直接経費					間接経費
		計(c)	物品費	旅費	人件費・謝金	その他	譲渡額(d)
交付決定額の内訳	3,640,000	2,800,000	1,500,000	350,000	550,000	400,000	840,000
実支出額の累計額	2,868,194	2,028,194	537,954	0	40,240	1,450,000	840,000
うち当該年度の実支出額(A)	867,986	567,986	226,986	0	0	341,000	300,000

	合計 (i + j)	直接経費					間接経費
		前年度未使用額 (e)	支払請求額 (f)	前倒し支払請求額 (g)	受入利息 (h)	計 (i)	譲渡額 (j)
当該年度の所要額 (B)	1,639,792	339,792 (0)	1,000,000	0		1,339,792	300,000
次年度使用額 (B - A)	771,806	備考	延長：2022年3月15日				

7. 主要な物品明細書（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕様（型・性能等）	数量	単価（円）	金額（円）	設置研究機関

1 版

## 8 . 補助事業者別収支状況

区分	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	直接経費(円)		間接経費の 譲渡額(円)	備考
			実支出額 の累計額	当該年度 実支出額		
研究代表者	辻川 典文  ( 50636785 )	神戸親和女子大学・文学部・准教授  ( 34514 )	2,028,194	567,986	300,000	
	合計(小計)	1 名	2,028,194	567,986	300,000	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 辻川典文	4. 巻 56
2. 論文標題 リスク事象への不安感に対するゼロリスク志向と管理機関の信頼の影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神戸親和女子大学研究論叢	6. 最初と最後の頁 29 - 37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 辻川典文	4. 巻 55
2. 論文標題 自尊感情とリスク認知、安全対策を担う機関への信頼との関連	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸親和女子大学研究論叢	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 辻川典文
2. 発表標題 原発の恐ろしさ認知に対する死の顕現化の影響と自尊感情の調整効果
3. 学会等名 日本社会心理学会第63回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻川典文
2. 発表標題 リスク認知や管理機関に対する信頼への公正世界信念の影響
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辻川典文
2. 発表標題 原発に対する関心や効力感が死の顕現化とリスク認知の係に及ぼす影響
3. 学会等名 日本社会心理学会第62回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辻川典文
2. 発表標題 死の顕現化が原子力発電のリスク認知に及ぼす影響
3. 学会等名 日本社会心理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 辻川典文
2. 発表標題 学技術や自然災害に対する恐ろしさ認知と自尊感情の係
3. 学会等名 日本心理学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------